

第44回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時：令和5年9月12日（火） 15：30～17：30

場 所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 Web 会議システム

1. 東電エンジニアリング状況について

東京電力から2号機 PCV 内部調査・試験的取り出し作業の準備状況及び、1号機ペDESTALの状況を踏まえた対応について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

(1) 2号機 PCV 内部調査・試験的取り出し作業の準備状況について

- X6ペネハッチ開放作業に時間を要しているが、今後も新たな問題が生じた場合は、工程にとらわれず適切に対策を講じて着実に進めることが重要である。
- 遠隔操作装置側と対象物側（X6ペネなど）の座標軸には誤差が生じると考えるため、座標軸の把握（計測）をしっかりと実施し、遠隔操作装置側の調整で対応が可能な誤差を予め確認しておくことが重要である。

(2) 1号機ペDESTALの状況を踏まえた対応について

- ダスト放出抑制のため PCV への窒素封入を停止することを考えているとのことだが、地震発生後に津波が来た場合はどうするか等の具体的な想定に基づきオペレーションマニュアルを作成することが重要である。

2. 工法評価小委員会の経過報告について

NDF から工法評価小委員会の経過を報告した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 作業実施中に想定されるリスクは、影響が大きいものから小さいものまで多種多様に存在すると思うが、小さいリスクまで対応できるよう時間と費用を掛けるよりは、ある程度スピード感を持って余計なコストを掛けないことも重要と考えるので、工法の選定にあたってはその点も考慮願う。
- 燃料デブリを切断した際に発生するダストについては作業環境（気中、湿潤、水中など）によって飛散の程度が異なることから、ダスト対策についても工法ごとに検討を実施し、安全性について比較することが重要である。
- 燃料デブリ取り出し作業は、各ステップの目標を予め定め、それも考慮して工法の選定を進めることが重要である。

以上